

MOVE THE WORLD FORWARD

MITSUBISHI
HEAVY
INDUSTRIES
GROUP

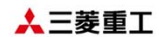


2017年度第3四半期 決算説明資料

2018年2月6日

三菱重工業株式会社

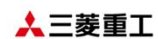
© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.



CFOの小口です。

2017年度第3四半期決算の概要について説明します。

目次



I. 2017年度第3四半期決算実績

・決算実績サマリー	3
・セグメント別内訳	4
・貸借対照表	5
・主要財務指標／キャッシュ・フロー	6
セグメント情報	
・受注高・受注残高	7
・売上高	8
・営業利益	9

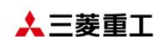
II. 2017年度業績見通し

・業績見通しサマリー	11
・セグメント別内訳	12

III. 補足資料 14-18

I . 2017年度第3四半期決算実績

第3四半期決算実績 サマリー



(単位: 億円)

	'16-3Q累計 (利益率)	'17-3Q累計 (利益率)	増減 (増減率)
受注高	26,564	25,776	△ 787 (△ 3.0%)
売上高	26,942	28,514	+1,571 (+ 5.8%)
営業利益	(2.5%) 684	(2.8%) 800	+115 (+ 16.9%)
経常利益	(1.9%) 509	(3.2%) 911	+402 (+ 78.9%)
特別損益	△ 197	△ 88	+109 -
親会社株主に帰属する 当期純利益	(△0.4%) △ 112	(0.9%) 247	+360 -
EBITDA	(7.6%) 2,055	(7.7%) 2,201	+146 (+ 7.1%)

【'17-3Q累計特別損益
(△88)の内訳】

【特別利益】

・投資有価証券売却益 19

【特別損失】

・事業構造改善費用 △108

以下の営業外収益を含む
・持分法投資利益 13 (+228)
※()内は対前年同期比増減

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

3

サマリーについて説明します。

受注高は、前年同期より787億円減少し、2兆5,776億円となりました。

売上高は、前年同期より1,571億円増加し、2兆8,514億円となりました。

営業利益は、前年同期より115億円増加し、800億円、営業利益率は2.8%となりました。

経常利益は、前年同期より402億円増加し、911億円となりました。前年同期より大きく増加したのは、前年同期は三菱自動車工業(2016年度第1四半期まで持分法適用会社)に係わる持分法投資損失を計上した一方、当年度はそれがなくなったことのほか、為替差益や配当金などにより金融収支がプラスになったことなどにより、営業外損益が111億円のプラスとなったことによるものです。

特別損益は、△88億円となりました。このうち特別損失では、事業構造改善費用として△108億円を計上しています。これは、三菱日立パワーシステムズやPrimetals Technologiesなどの合併会社を中心に実行しているPMI_(※)にともなう一時的な費用を計上したものです。

これらの結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期より360億円増加し、247億円となりました。

収益力を示すEBITDAは、前年同期より146億円増加し、2,201億円となりました。

(※) PMI: Post Merger Integration (事業の合併後の統合プロセス)

第3四半期決算実績 セグメント別内訳 (※)



(単位: 億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'16-3Q 累計	'17-3Q 累計	増減	'16-3Q 累計	'17-3Q 累計	増減	'16-3Q 累計	'17-3Q 累計	増減
パワー	10,625	10,145	△ 479	9,730	9,857	+127	439	404	△ 34
インダストリー& 社会基盤	11,882	12,077	+194	12,356	13,545	+1,189	279	404	+125
航空・防衛・宇宙	3,955	3,515	△ 440	4,738	5,170	+432	14	28	+13
その他	1,179	878	△ 301	1,197	849	△ 347	65	40	△ 25
消去または共通	△ 1,078	△ 839	+238	△ 1,079	△ 910	+169	△ 113	△ 77	+35
合計	26,564	25,776	△ 787	26,942	28,514	+1,571	684	800	+115

(※) 2017年4月1日付で実施した組織再編および事業再配置に伴い、報告セグメントを変更しております。

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

4

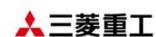
セグメント別の状況について説明します。

受注高は、パワーセグメントおよび航空・防衛・宇宙セグメントで減少しています。パワーセグメントは、非常に厳しい事業環境を受け、やや低調に推移しています。航空・防衛・宇宙セグメントでは、対前年同期比△440億円の半分以上の要因は、前年度にはMRJの受注計上があったことによるものです。事業のファンダメンタルに大きな変化が生じたものではなく、また防衛関連の受注は例年第4四半期に集中することもあり、あまり心配はしていません。

売上高は、3セグメントとも増加しました。特にインダストリー＆社会基盤セグメントでは、中量産品事業が比較的堅調に推移していることから、1,189億円と大きく増加しています。航空・防衛・宇宙セグメントも、432億円増加しています。

営業利益では、パワーセグメントが前年同期を若干下回りました。第2四半期決算の際にも説明しましたとおり、これは主に原子力の工事が全般的に後ろ倒しになっているためで、この影響を除くと、実質的には前年同期を上回った状態で推移しています。原子力の売上、営業利益は、第4四半期に集中的に計上される見込みです。インダストリー＆社会基盤セグメントでは、中量産品の売上増加などが増益に貢献しています。航空・防衛・宇宙セグメントでは、防衛関連や民間航空機(Tier1事業)が堅調に推移している一方、MRJの研究開発費増加もあり、前年同期とほぼ同じ水準になりました。

第3四半期決算実績 貸借対照表



貸借対照表

(単位:億円)

	'16-3Q末	'16年度末	'17-3Q末	対前年度末 増減
売上債権	11,510	11,801	13,071	+1,269
たな卸資産	15,008	13,255	14,052	+797
その他流動資産	10,517	10,163	※ 11,475	+1,311
固定資産	12,539	11,845	11,538	△307
投資等	7,469	7,753	8,712	+958
資産合計	57,046	54,819	58,849	+4,030
買入債務	7,668	8,360	7,919	△440
前受金	6,909	7,776	8,731	+954
その他	8,347	8,353	8,236	△117
有利子負債	14,067	9,255	12,150	+2,894
純資産	20,054	21,072	21,812	+739
(うち自己資本)	(16,796)	(17,826)	(18,428)	(+601)
負債・純資産合計	57,046	54,819	58,849	+4,030

※ 南アフリカプロジェクトに係る資産
3,635億円を含む

短期借入金 +333
コマーシャルペーパー +3,190
社債(1年内含む) △400
長期借入金(1年内含む) △228
・対前年度3Q末比では△1,916

配当 △403
純利益 +247
その他の包括利益 +654 他
(その他有価証券評価差額金等)

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

5

バランスシートの状況について説明します。

当社はバランスシートの改善、健全化に努めていますが、第3四半期末の総資産は5兆8,849億円で、対前年同期末、対前年度末いずれにおいても増加しています。例年、売掛金の入金等により年度末に向けてバランスシートが縮小していく傾向はあるものの、南アフリカプロジェクトやMRJに関連する部分で資産が積み上がっています。

バランスシートの健全性を見る上で注目しているのが、たな卸資産を買入債務および前受金でカバーできているか、すなわち、売上債権と有利子負債の水準が整合しているかという点です。当第3四半期末は、買入債務と前受金の残高合計は1兆6,650億円で、たな卸資産1兆4,052億円を上回っています。よって、財務体質が大きく崩れているとは考えていません。

第3四半期末はキャッシュフローが底を迎える時期ですので、有利子負債も一時的に増加して1兆2,150億円となり、対前年度末では2,894億円増加しています。これは当年度末には圧縮できると考えており、主に短期返済が可能なコマーシャルペーパーで調達しています。

なお、欄外に記載のとおり、純資産の増加は、昨今の有価証券の値上がりにもなう、その他の包括利益の増加も影響しています。

第3四半期決算実績 主要財務指標／キャッシュ・フロー



主要財務指標

	'16-3Q末	'16年度末	'17-3Q末	対前年度末 増減	'17年度 見通し
自己資本比率	29.4%	32.5%	31.3%	△ 1.2pt	－
有利子負債残高 (単位: 億円)	14,067	9,255	12,150	+2,894	8,500
D/Eレシオ	0.70	0.44	0.56	+0.12	－

キャッシュ・フロー

(単位: 億円)

	'16-3Q 累計	'17-3Q 累計	増減	'17年度 見通し
営業CF	△ 2,619	△ 882	+1,737	－
投資CF	△ 1,319	△ 1,803	△ 484	－
フリーCF	△ 3,939	△ 2,685	+1,253	1,000

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

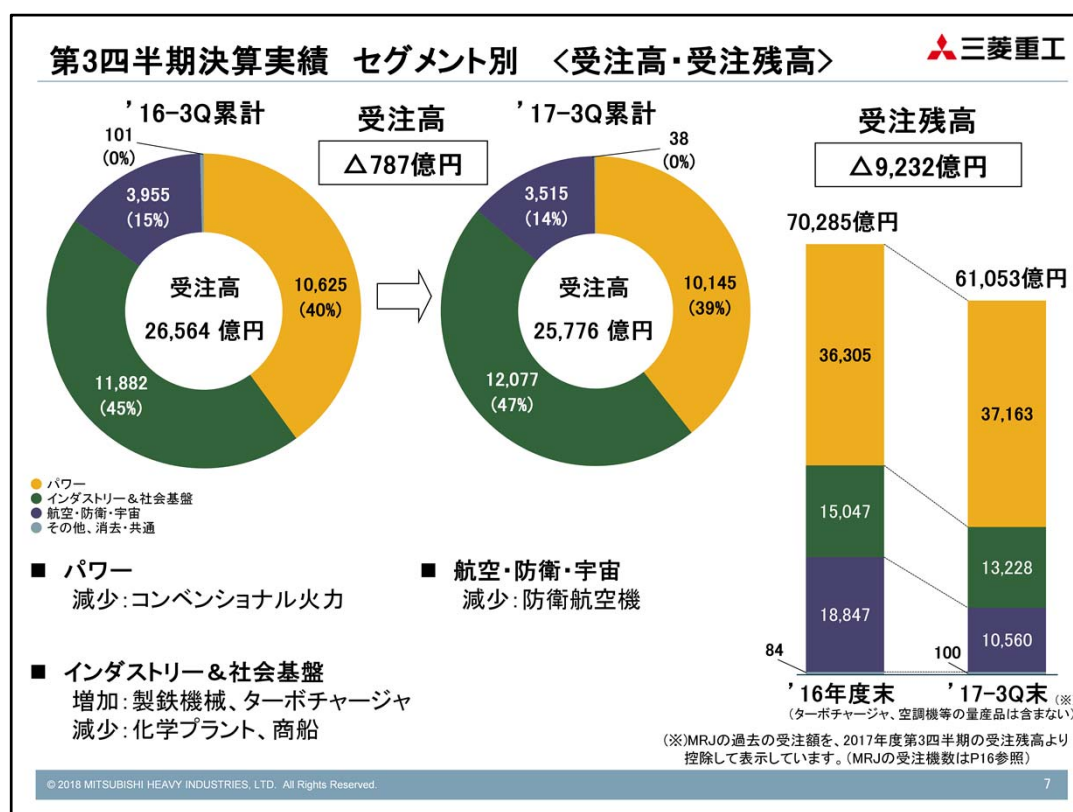
6

主要財務指標とキャッシュフローの状況について説明します。

自己資本比率は31.3%、有利子負債残高は1兆2,150億円、D/Eレシオは0.56となりました。対前年度末比では若干悪化していますが、対前年同期末比ではいずれも改善しています。

フリーキャッシュフローは△2,685億円となりました。当社は例年、第3四半期末がフリーキャッシュフローの底の時期にあたりますが、対前年同期比、すなわち底の時期同士の比較では、1,253億円増加しています。フリーキャッシュフローについては、当社の財務戦略における基礎的な数値として、非常に詳細に分析しながら事業を遂行していますが、現時点ではほぼ計画どおりに進捗しており、年間で1,000億円のフリーキャッシュフロー創出という見通しの達成確度は幾分高まったものと評価しています。

財務の状況については、最後にもあらためて説明します。

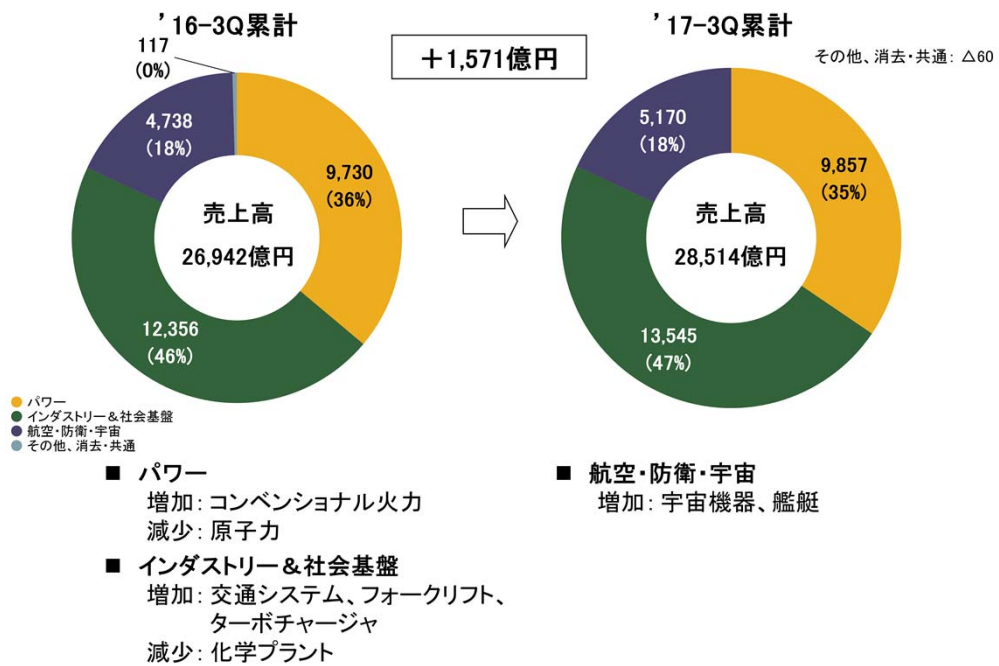
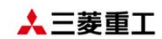


受注高・受注残高、売上高、営業利益のセグメント別内訳について、4ページでも説明しましたのでここでは詳細は省略します。

受注高は、パワー、航空・防衛・宇宙の両セグメントで減少し、全体では787億円の減少となりました。

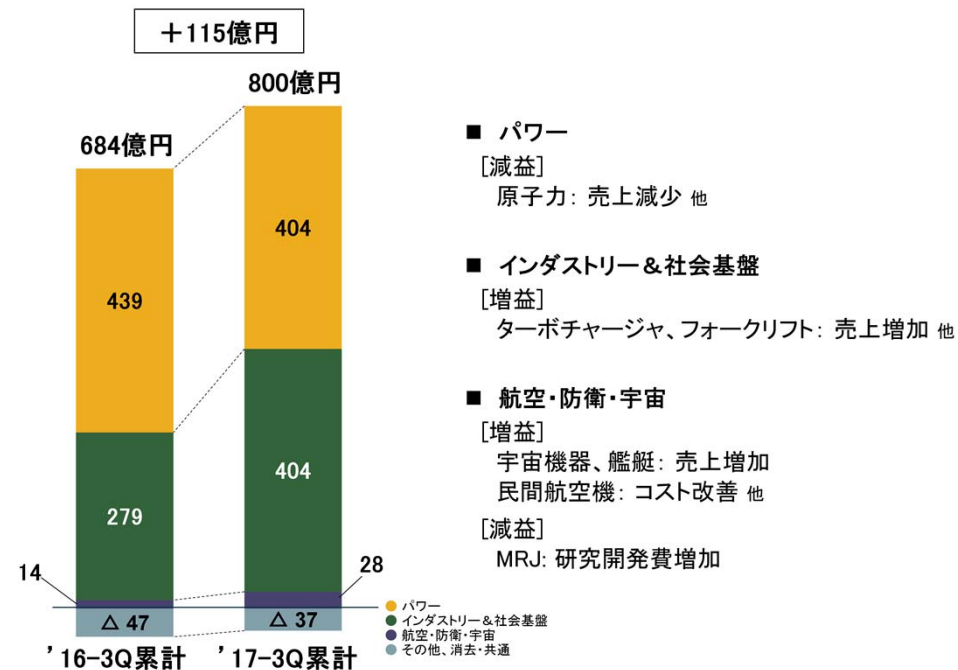
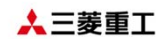
受注残高は、第2四半期決算の際に説明しましたとおり、MRJの過去の受注額を控除して表示しています。これを除くと、ほぼ前年同期並みです。

第3四半期決算実績 セグメント別 <売上高>



売上高は、3セグメントとも増加しました。特にインダストリー&社会基盤セグメントで、フォークリフト、ターボチャージャなどの中量産品が堅調に推移しています。

第3四半期決算実績 セグメント別 <営業利益>



© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

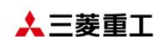
9

営業利益は、パワーセグメントで若干減少しています。主に、原子力の工事が後ろ倒しになったことから利益の計上が遅れている影響によるものですが、一方で火力発電システム事業は比較的堅調に推移しています。インダストリー&社会基盤セグメントでは、中量製品の健闘などにより増益となっています。

Ⅱ．2017年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
従いまして、この業績見通しの上に依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。
実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。
実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2017年度業績見通し サマリー



(単位:億円)

	'16年度実績 (利益率)	'17年度見通し (利益率)	対前年度増減 (増減率)
受 注 高	42,756	40,000	△ 2,756 (△6.4%)
売 上 高	39,140	40,500	+1,359 (+3.5%)
営業利益	(3.8%) 1,505	(4.4%) 1,800	+294 (+19.6%)
経常利益	(3.2%) 1,242	(4.2%) 1,700	+457 (+36.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	(2.2%) 877	(2.0%) 800	△ 77 (△8.8%)
R O E	5.1%	4.4%	△0.7pt
EBITDA	(8.7%) 3,398	(9.1%) 3,700	+301 (+8.9%)
フリーCF	1,046	1,000	△ 46 (△4.4%)
配当 (株式併合後換算、 1株あたり)	(※) 120円 (中間60円/期末60円)	(※) 120円 (中間60円/期末60円)	【未確定外貨】 7億ドル 3億ユーロ 【前提為替レート】 1ドル = 110円 1ユーロ = 130円

前回公表値(2017年10月31日)より変更なし

(※) 当社は、2017年10月1日付で株式併合(10株→1株)を実施しました。2016年度の配当実績は1株あたり12円(中間6円/期末6円)、2017年度の中間配当は1株あたり6円ですが、本資料上は配当予想との比較のため、いずれも当該株式併合実施後の配当金に換算して記載しています。

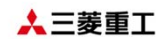
© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

11

2017年度の業績見通しについて説明します。

第2四半期末に、主に火力発電システム事業の受注の先行き、売上計上の状況等を踏まえて業績見通しを下方修正しました。当第3四半期末時点では、ここまで説明してきました状況から見通し修正は不要と考え、いずれも前回公表値を据え置いています。なお、為替による影響は欄外に記載のとおりです。

2017年度業績見通し セグメント別内訳 (※)



(単位: 億円)

	受 注 高			売 上 高			営 業 利 益		
	'16年度 実績	'17年度 見通し	対前年度 増減	'16年度 実績	'17年度 見通し	対前年度 増減	'16年度 実績	'17年度 見通し	対前年度 増減
パワー	17,263	14,500	△ 2,763	14,484	15,500	+1,015	1,081	1,000	△ 81
インダストリー& 社会基盤	15,903	19,000	+3,096	17,470	18,500	+1,029	500	800	+299
航空・防衛・宇宙	9,550	6,000	△ 3,550	7,034	6,500	△ 534	9	100	+90
その他	1,604	1,500	△ 104	1,759	1,500	△ 259	107	100	△ 7
消去または共通	△ 1,566	△ 1,000	+566	△ 1,607	△ 1,500	+107	△ 193	△ 200	△ 6
合計	42,756	40,000	△ 2,756	39,140	40,500	+1,359	1,505	1,800	+294

(※) 2017年4月1日付で実施した組織再編および事業再配置に伴い、報告セグメントを変更しております。

セグメント別の内訳はご覧のとおりです。

最後に、当社の財務体質について、あらためて説明します。

当社は、リーマンショック時に負債残高が巨額になったことを契機に、2010年度以降、グローバル競争を勝ち抜くため、キャッシュフロー経営に移行しました。2012年度からの中期経営計画「2012事業計画」、さらに2015年度からの「2015事業計画」においても、財務体質の改善を当社経営の大きなテーマと位置付けて、取り組みを進めています。

この間、MRJの開発、客船プロジェクトによる損失、さらには南アフリカプロジェクトに関わる貸付といった資金需要をカバーしつつも、有利子負債の圧縮を実現しています。2015年度にはユニキャリアホールディングスの買収があり、買収資金の投入や同社バランスシート上の借入金を引き込んだ影響で、有利子負債が一時的に増加しましたが、その後これを吸収し、2016年度は減少しました。さらに当年度、6ページで説明しました年間のフリーキャッシュフロー1,000億円を達成できれば、有利子負債はさらに減少する見通しです。

バランスシートの改善を通じてグローバル市場における競争力を高めるため、例えば営業であれば商務条件の調整、生産現場であればコスト低減や工程短縮など、各現場における日々の積み重ねを通じてキャッシュフローを改善し、財務体質を強化することが重要であるということを社内で共有しています。そして、各SBU_(※)、さらにはその集合体としての各ドメインに目標値を設定し、それを着実に遂行することで、競争力強化に努めています。

以上で、2017年度第3四半期決算の説明を終わります。

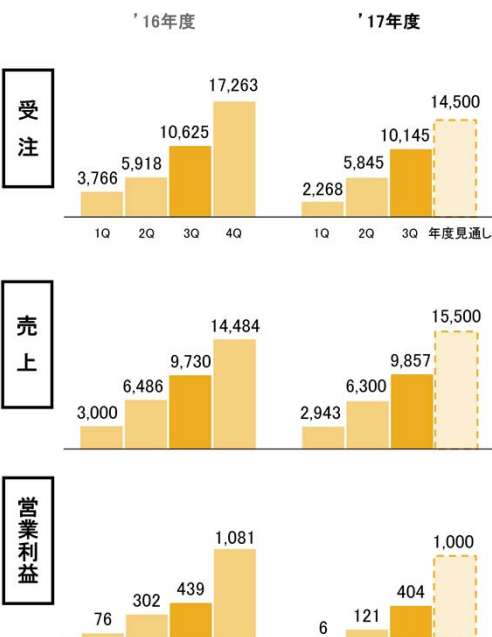
(※) SBU: Strategic Business Unit (戦略的事業評価制度における事業単位)

Ⅲ. 補足資料

補足資料① 第3四半期決算実績 <パワー>



(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期△479億円の減少
減少…コンベンショナル火力

【ガスタービン受注台数】

'16-3Q累計 : 14台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	4	6	2	1	13
中小型	-	1	-	-	1
合計	4	7	2	1	14

'17-3Q累計 : 6台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	-	2	-	2	4
中小型	-	-	1	1	2
合計	0	2	1	3	6

【ガスタービン契約残台数】

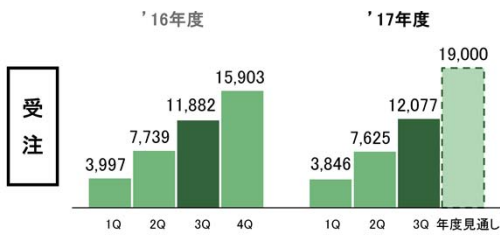
	大型	中小型	合計
'16-3Q末	38	24	62
'16年度末	43	14	57
'17-3Q末	37	8	45

売上 : 対前年同期+127億円の増収
増加…コンベンショナル火力
減少…原子力

損益 : 対前年同期△34億円の減益
減益…原子力: 売上減少 他

補足資料① 第3四半期決算実績 <インダストリー & 社会基盤>

(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期+194億円の増加

増加…製鉄機械、ターボチャージャ
減少…化学プラント、商船

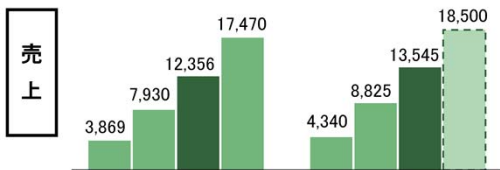
【商船 受注隻数】

'16-3Q累計 : 6隻 (1Q:4隻、2Q:2隻、3Q:0隻、4Q:3隻)

'17-3Q累計 : 4隻 (1Q:1隻、2Q:1隻、3Q:2隻)

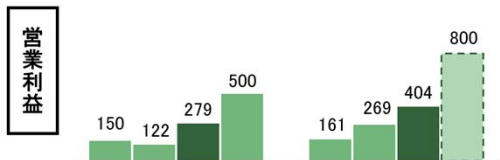
【商船 契約残隻数】29隻

(LNG船 10隻、LPG船 4隻、RO-RO船 3隻 他)



売上 : 対前年同期+1,189億円の増収

増加…交通システム、フォークリフト、ターボチャージャ
減少…化学プラント



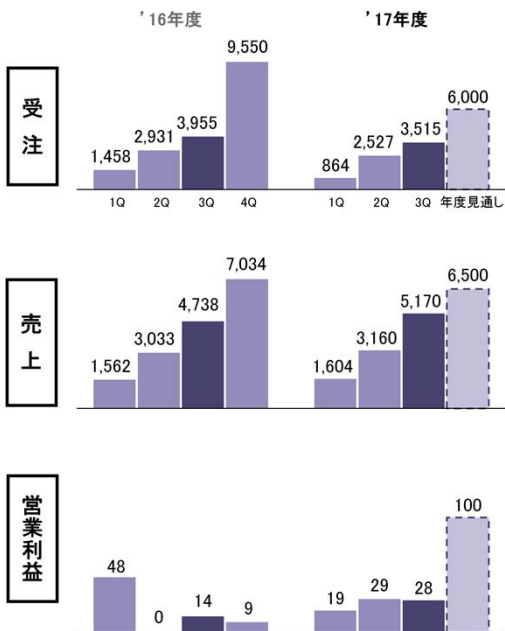
損益 : 対前年同期+125億円の増益

増益…ターボチャージャ、フォークリフト: 売上増加 他

補足資料① 第3四半期決算実績 <航空・防衛・宇宙>



(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期△440億円の減少

減少…防衛航空機

【MRJ 累計受注機数】(2018年2月6日現在)

387機 (確定 213機、オプションおよび購入権 174機)

売上 : 対前年同期+432億円の増収

増加…宇宙機器、艦艇

【B777 引渡機数】

'16年度(実績) : 91機 (1Q:27機、2Q:24機、3Q:19機、4Q:21機)

'17年度(見通し) : 57機 (1Q:17機、2Q:15機、3Q:16機、4Q: 9機[予定])

【B787 引渡機数】

'16年度(実績) : 125機 (1Q:36機、2Q:31機、3Q:25機、4Q:33機)

'17年度(見通し) : 141機 (1Q:36機、2Q:36機、3Q:33機、4Q:36機[予定])

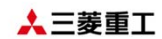
損益 : 対前年同期+13億円の増益

増益…宇宙機器、艦艇: 売上増加

民間航空機: コスト改善 他

減益…MRJ: 研究開発費増加

補足資料② 参考データ



1. 研究開発費、減価償却費、設備投資

	'16-3Q累計	'17-3Q累計	(単位:億円) '17年度 見通し
研究開発費	988	1,029	1,700
減価償却費	1,251	1,277	1,800
設備投資	1,353	1,063	1,700

2. 販売費及び一般管理費

	'16-3Q累計	'17-3Q累計	(単位:億円)
販管費	4,201	4,471	

3. 為替レート(売上計上平均レート)

	'16-3Q累計	'17-3Q累計
USドル(円/USドル)	106.4	111.7
ユーロ(円/ユーロ)	117.3	126.8

4. 海外地域別売上高

(単位:億円)

	'16-3Q累計		'17-3Q累計	
北米	4,813	(18%)	4,876	(17%)
アジア	4,468	(17%)	4,984	(18%)
欧州	3,038	(11%)	2,929	(10%)
中南米	767	(3%)	1,135	(4%)
中東	820	(3%)	1,100	(4%)
アフリカ	887	(3%)	661	(2%)
オセアニア	241	(1%)	228	(1%)
合計	15,036	(56%)	15,916	(56%)

※ ()内は構成比

5. 所在地別セグメント情報

(単位:億円)

		'16-3Q累計	'17-3Q累計
日本	売上高	20,358	21,358
	営業利益	459	496
北米	売上高	3,417	3,519
	営業利益	57	85
アジア	売上高	2,692	3,104
	営業利益	223	259
欧州	売上高	2,721	2,811
	営業利益	△ 58	△ 43
その他	売上高	701	887
	営業利益	2	3
消去または共通	売上高	△ 2,948	△ 3,167
	営業利益	-	-
合計	売上高	26,942	28,514
	営業利益	684	800

MOVE THE WORLD FORWARD

**mitsubishi
heavy
industries
group**

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.